

東京都写真美術館年報

2010 - 2011

TOKYO
METROPOLITAN
MUSEUM
OF
PHOTOGRAPHY

東京都写真美術館年報／2010-11
Annual Report: Tokyo Metropolitan Museum of Photography
2010-11

はじめに

東京都写真美術館は、「お客様のニーズにチャレンジ！」を平成22年度運営目標として事業の企画・運営に取り組み、昨年度に引き続き42万人を超える多くのみなさまにご来館いただきました。また、平成23年2月には、平成7年1月の総合開館以来、総観覧者数500万人を達成いたしました。

展覧会事業では、楽しみ、学び、体験し、つながりを深めていくことを目指し、当館所蔵のコレクションを活用したシリーズ展、調査・研究に基づいた多彩な企画展、当館重点収集作家の個展や新進作家の作品展、国内外の幅広いネットワークを活かした国際展など、関係団体、企業、出品作家の方々などの協力のもとに23の展覧会を開催いたしました。展覧会では、作品に親しみ美術館に魅力を感じていただけるよう、出品作家や当館学芸員によるギャラリートーク、対談等の充実を図るとともに、図書室司書による関係資料紹介などを積極的に進めました。

また、3回目を迎えた「恵比寿映像祭」では、「デイドリーム ビリーバー!!」を総合テーマに、20ヶ国の作家、ゲストの参加を受け、展示、上映、ライブ、イベント、トークなど多彩なプログラムを実施したほか、恵比寿ガーデンプレイス及び各商業店舗との協力、近隣地域の各文化施設との連携を積極的に図り、各種の共催プログラムを実施しました。

さらに映画館を持つ美術館として、「アート&ヒューマン」をテーマに、14本もの映画作品を上映し、幅広い年齢層の方々にご鑑賞いただき、5万人を超える多くのみなさまにご入場いただきました。平成22年11月には、皇后陛下の行啓を賜り、映画「アニメ・ジュノー」をご鑑賞されました。

教育・普及では、ボランティアのみなさまのご協力のもと、学校と連携した多様なスクールプログラムや、初心者から上級者まで、写真美術館ならではの多彩なワークショップを開催し、写真・映像を通した豊かな体験学習の場を提供してきました。

また、写真美術館の基盤となる作品収集におきましては、東京都をはじめ当館支援会員である支援企業、団体、作家のみなさまの多大なご尽力、ご支援により、厳選した質の高い作品、歴史的にも貴重な作品376点を新たにコレクションに加えることができました。

これらのコレクションはもとより、内外のすぐれた作品をより身近なものとして、多くのみなさまにご覧いただき、喜ばれ親しまれる美術館となるよう今後も一層の努力を積み重ねてまいります。

本書がみなさまにとって当館を知るための参考になれば幸いです。

東京都写真美術館

目次

平成22年度事業

東京都写真美術館の基本的性格	5
東京都写真美術館の事業内容	6
東京都写真美術館の戦略的運営	7
展覧会事業	13
教育普及事業	26
作品資料収集／作品収集実績	33
平成22年度収蔵作品の紹介	36
調査研究・普及活動（個人）	41
広報事業	45
保存科学研究室	50
図書室	52
実験劇場	54
支援会員	59
ミュージアムショップ／カフェ	63
数字からみた写真美術館	64
条例	69
施行規則	72
開館の経緯／組織図	74
平面図／施設面積／建物概要／設備概要	75
利用案内	77



東京都写真美術館の基本的性格

東京都写真美術館は、我が国初の写真の総合的専門美術館です。中心となる「写真美術館」に、映像分野全般について、文化と技術の両面から総合的にとらえ体験できる「映像工夫館」*を付設した、多くの都民にとって親しみやすく、また多様な関心に応えることが可能な新しい文化施設です。そしてこの美術館は、次のような基本的性格を持っています。

- a 写真の総合的専門美術館として、収集、展示、保存、修復、調査、研究、普及などを含めた総合的な活動を行います。
- b 写真表現の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘し、新しい創造活動の展開の場とします。
- c 写真芸術・文化を普及するために、人々が気軽にすぐれた写真作品を鑑賞し、学ぶとともに、美術館の諸機能を積極的に享受できるような、開かれた施設とします。
- d 写真に関するあらゆる情報を集約するとともに写真を含む映像全般に関する調査・研究を行う施設とします。
- e 日本における写真文化のセンター的役割を果たすとともに、国際的な交流の拠点となることを目指します。
- f ワークショップなど参加型機能をもつとともに、人々の創作活動をサポートする施設として、国内外の写真作家や人々が広く交流しうる場を備えた施設とします。
- g 歴史的な映像文化に関する展示と最先端の映像表現を体験的に享受できる「映像工夫館」を併設し、映像メディアの発達の歴史を学ぶとともに多様な表現の可能性を探ります。

(平成3年8月東京都策定「東京都写真美術館基本計画」より)

*なお「映像工夫館」では現在「地下1階展示室」として「映像展」をはじめ各種展覧会を開催している。



東京都写真美術館の事業内容

1. 展覧会事業

3階、2階、地下1階に設置する約500㎡の3つの展示室で、年間を通じて展覧会を開催。収蔵している約2万5千点以上の写真・映像作品を中心に紹介する収蔵展のほか、支援会員の支援を基に実施する自主企画展、他団体との誘致展など多種多様な企画を実施する。

2. 教育普及事業

講演会やカフェ・トーク、ワークショップ（写真ワークショップ、映像ワークショップ、子どもワークショップ）、スクールプログラム（小学校、中学校、高等学校などとの連携授業）、ガイドツアー、美術館ボランティア事業などを実施する。

3. 作品資料収集

収集の基本方針および写真作品収集の新指針に基づき、写真および映像作品・資料、写真機材などを収集、保存、管理。収蔵作品の閲覧サービスを実施する。

4. 調査研究

国内外の写真史、映像史、美術史や写真論、映像論、美術論の成果をふまえ、また社会学やメディア論など他分野をクロスオーバーしながら、常に新しい写真・映像作品の動向に目を向け、国際的な視点をふまえた調査研究を行い、その成果を展覧会や普及事業、紀要やシンポジウムなどに反映させる。

5. 広報事業

展覧会、写真・映像文化の普及をはじめとした事業に関する広報宣伝（記者懇談会、写真美術館ニュースの発行、チラシ等配布、ホームページ管理・運営、広報イベントの企画・運営、ポスター、外壁ディスプレイシート、懸垂幕の掲出など）。

6. 情報システム

収蔵作品および図書資料の収集、登録、管理、運用ができるようデータベースを整備する。情報検索システムを利用し、来館者向け検索サービスを実施する。

7. 保存科学研究室

展示および貸出前後における収蔵作品の状態調査、収蔵条件および展示条件の決定、収蔵作品の修復および展示室の環境調査、写真資料の保存・修復に関する研究を行う。

8. 図書室

図書資料の収集、整理、保存、閲覧サービス、レファレンスサービス、調査研究の支援を行う。

9. 実験劇場

1階ホールで、将来を担う有望な若手新進監督の映画作品や良質な作品の中から、写真美術館にふさわしい映画を先駆けて上映を行う。

10. 支援会員

写真・映像に係わる文化や芸術等の振興をはかるとともに、東京都写真美術館の活動を支援することを目的として、法人支援会員制度を設立し、より多彩に充実した事業を展開させる。

東京都写真美術館の戦略的運営

東京都写真美術館のミッション

東京都写真美術館は、平成7年に恵比寿ガーデンプレイス内に総合開館しました。わが国初めての写真と映像に関する総合美術館として開設され、写真・映像の文化の発展を目的に誕生しました。開館10周年を経た今日、当館運営に当たってのミッションは以下のとおり考えます。

平成18年3月2日 東京都写真美術館館長
福原 義春

「わが国唯一の写真・映像の総合美術館として、 センター的役割を担う存在感のある美術館を目指します。」

<過去から現在に至る写真・映像文化を未来に継承する美術館>

貴重な作品や資料を的確に収集・保存し、将来の写真・映像文化発展の礎とします。また、次世代の文化の担い手である子どもや若者達に積極的に文化発信を行います。

<質の高い写真・映像文化と出会う美術館>

社会との関連性や、国際動向を十分踏まえ、収蔵コレクションの有効活用や、調査研究に立脚しながら、質が高く満足度の高い展覧会を実施します。

<写真・映像文化の普及と新たな創造を支援する美術館>

美術館での体験を通じ、写真・映像の技法や表現に関する理解を深めるとともに、新たな文化創造を支援する刺激のある場とします。

<写真・映像文化の拠点として貢献する美術館>

国内外の美術館、関係機関との連携を深めながら、写真・映像文化の拠点として、多様な事業を推進する上で貢献できるよう努めます。

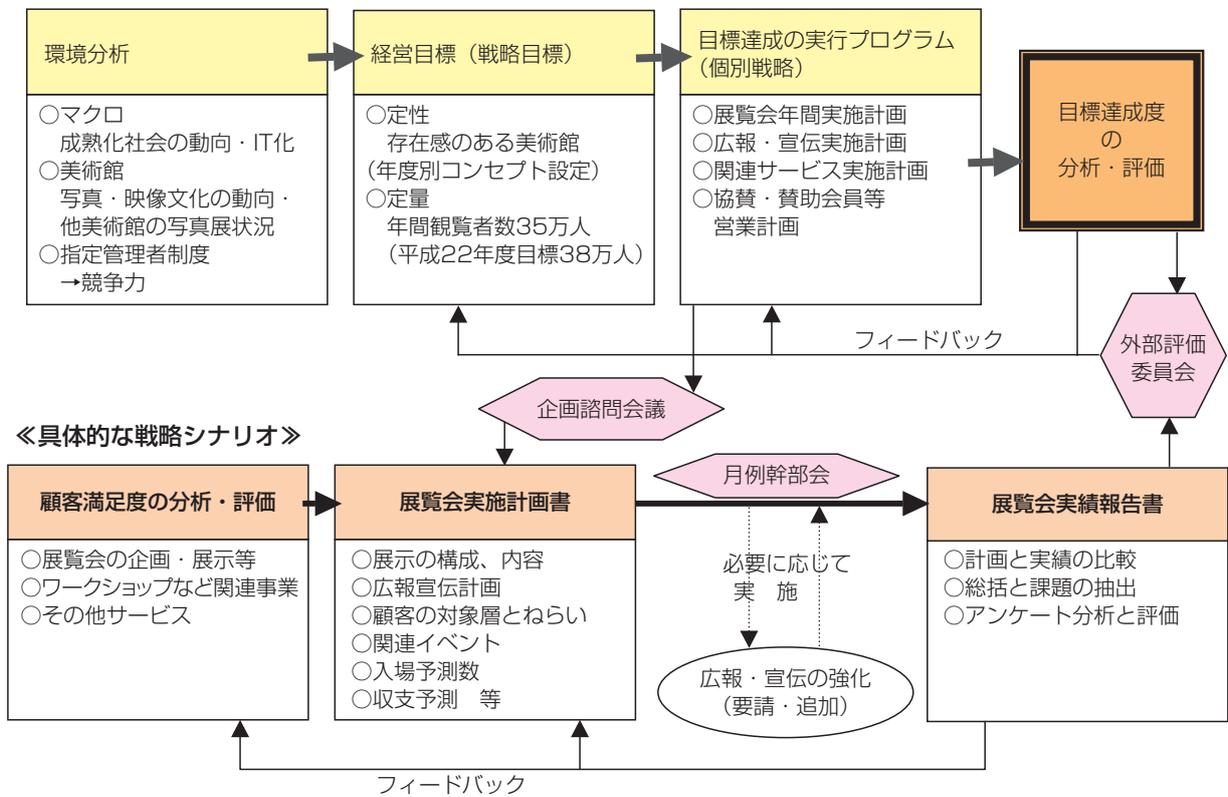
<開かれた美術館>

来館者の視点に立ち、人々に広く活用されるとともに、企業、団体、ボランティア等の参画を募り、開かれた美術館とします。

当ミッションは平成18年3月2日に策定した。

写真美術館における戦略的運営システム

写真美術館では、民間企業で取組んでいる戦略的経営の考え方や視点を参考にして運営システムを構築しており、環境分析から戦略目標、個別戦略、事業計画さらには目標管理まで一連の仕組みを定めている。



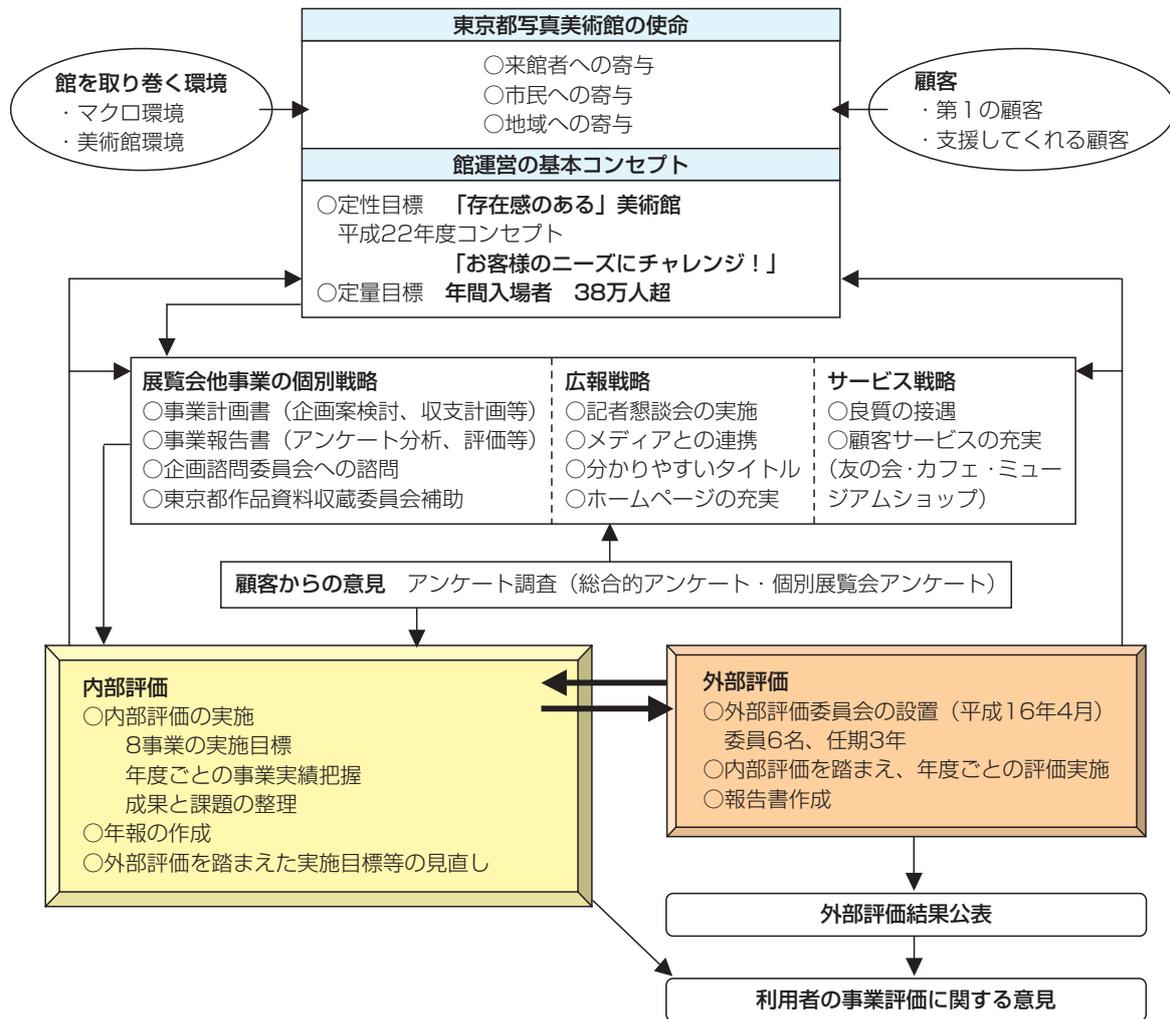
「経営目標の設定」

定性目標 「存在感のある」美術館運営
 とりわけ来館者が「また来たい」と思う魅力的な展示と雰囲気を目指す。
 ○写真愛好家にとどまらず、幅広いジャンル(美術・音楽・映画等)の愛好家が多く来館し、館の存在を一般的に周知できること。
 ○日本を代表する写真美術館として、写真・映像のセンター的役割を果たすとともに、新しい創造活動の展開の場とすること。

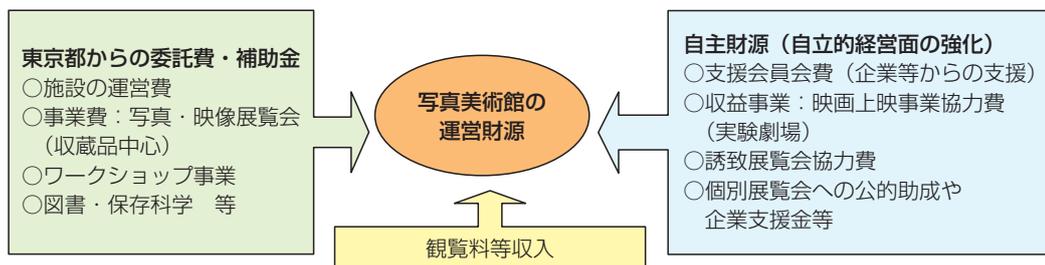
★年度別コンセプト	平成18年度	「判りやすく説明する美術館」
平成13年度	平成19年度	「対話する美術館」
平成14年度	平成20年度	「顔が見える美術館」
平成15年度	平成21年度	「交流を広げ、つながりを強める美術館」
平成16年度		
平成17年度		
		平成22年度 「お客様のニーズにチャレンジ」

定量目標	年間入館者	38万人超	平成18年度	443,107人 (前年度比 1.01倍)
平成13年度	227,183人	(前年度比 1.04倍)	平成19年度	365,871人 (// 0.83倍)
平成14年度	364,307人	(// 1.6倍)	平成20年度	415,456人 (// 1.14倍)
平成15年度	413,289人	(// 1.1倍)	平成21年度	428,514人 (前年度比 1.03倍)
平成16年度	431,521人	(// 1.04倍)		
平成17年度	441,705人	(// 1.02倍)		
				平成22年度 427,223人 (前年度比 0.99倍)

館運営と事業評価の概念



運営財源



平成22年度 コンセプトと取り組み

中長期的な目標である「存在感のある美術館」を達成するための活動として、平成22年度コンセプトを設定した。

お客様のニーズにチャレンジ

お客さまの要望をかなえる努力をそれぞれの立場でチャレンジし、多様なニーズに応え、常に前進する努力をしていく。

◆ 館内施設の改善要望

①「館内に休める場所を設けてほしい。飲み物が飲める場所がほしい。」との要望を受け、2階エントランスホールに「ラウンジ（休憩スペース）」を設置するとともに飲み物が飲めるよう「自動飲料販売機」を設置した。

また、飲み物のカップのゴミ化を防ぐため、紙カップを指定場所に廃棄するとお金が返却される「デポジット式紙カップ回収機」を自動飲料販売機の横に併設した。



2階ラウンジ



自動飲料販売機

②写真美術館2階正面玄関の階段付近が、日没と同時に暗くなり、階段の段差が見えにくい。上り下りするのに大変危険である。」とのご意見を受け、当該階段部分に照明機器を設置し、夜間開館時でも安心してご来館いただけるよう改善した。また、同階段横のエスカレーター部分についても、事故防止を図るため、照明機器の設置工事を行った。

③「トイレに服を掛けるフックがなく、バッグなどの荷物を置ける場所がない。荷物を置ける工夫をしてほしい。」とのご要望を受け、各階の個室トイレ（30箇所）全てに荷物置台を設置し、来館者の利便性の向上を図った。

◆ 情報提供の充実

写真美術館ニュース「eyes」の別冊版として「nya-eyes（ニアイズ）」を発行。美術館を客観的かつ多面的に紹介する機会がほとんどなかった若者から青年層を対象に、展覧会事

業以外への理解を促進し、将来の美術館ファンを醸成することを目的として作成した。著名な漫画家の手による広報紙「nya-eyes（ニアイズ）」は、写真美術館情報誌として若者層を中心に広く愛読され、好評を博している。

また、ホームページの新着情報や更新度を迅速にアップするなど、情報提供の充実を図った。

◆ 各種割引制度の拡充

写真美術館の展覧会を多くのお客様に観覧していただくため、各種会員割引制度の拡充、無料観覧日の増設を行い、来館者サービスの向上を図った。

○「写真美術館友の会カード」の充実

「友の会カード」の従来の展覧会割引に加えて、ポイント制を導入し、蓄積ポイントによって様々な商品と交換できるなどの特典を付与したカードにリニューアルした。

○「三越会員カード」の適用拡大

これまで恵比寿地域に限定していた「三越会員カード」を全国の「三越会員カード」に拡大することにより、写真美術館の存在を広く認知していただき、三越各店から写真美術館への送客数の増大を見込めることから適用を拡大した。

○「JR東日本大人の休日倶楽部会員カード」の新規割引

会員数120万人の「JR東日本大人の休日倶楽部会員」のサービス開始により多くの来館者が見込めるほか、会員向け広報誌により写真美術館をPRすることができることから、次年度よりサービスの開始を行うこととした。

○各種「無料観覧日」、「観覧料割引日」の増設

「シルバーディ」など既存のサービスのほかに、期間を限定した各種「無料観覧日」、「観覧料割引日」を増設し、来館者サービスの向上を図った。

- ・「雨の日サービス」
- ・「カップルディ」
- ・「クリスマスプレゼント」
- ・「来館者500万人達成記念」

平成22年度 会議実績

企画諮問会議

座長	高階 秀爾	美術史家／大原美術館館長
副座長	高橋 則英	日本大学芸術学部写真学科教授
	飯沢 耕太郎	写真評論家
	今橋 映子	東京大学大学院総合文化研究科准教授
	柏木 博	武蔵野美術大学教授
	重延 浩	テレビマンユニオン代表取締役会長・CEO
	菅原 教夫	読売新聞編集委員
	中村 政人	東京藝術大学准教授
	森 茂雄	日本放送協会（NHK）視聴者サービス局長

開催日 平成22年9月29日（水）

議題 平成21年度の事業実績及び平成22年度の活動方針説明
平成26年度の展覧会企画提案

外部評価委員会

座長	榊山 紘一	印刷博物館館長
副座長	鈴木 杜幾子	明治学院大学教授（文学部芸術学科）
	内田 雅子	（株）佼成出版社新聞編集部 写真課課長 カメラマン
	逢坂 恵理子	横浜美術館館長
	大西 若人	朝日新聞社東京本社 文化グループ・編集委員
	木下 直之	東京大学教授（大学院人文社会系研究科 ・文化資源学研究専攻）

第1回外部評価委員会

開催日 平成22年5月26日（水）

議題 外部評価方法の確認及び平成21年度事業実績について報告

第2回外部評価委員会

開催日 平成22年7月28日（水）

議題 平成21年度事業全部門について総括と最終評定を討議

作品資料収蔵委員会

【収集部会】

委員長	柳本 尚規	東京造形大学教授
	岩本 憲児	日本大学芸術学部教授
	香川 檀	武蔵大学人文学部教授
	榎木 野衣	多摩美術大学教授
	竹内万里子	京都造形芸術大学准教授
	港 千尋	多摩美術大学美術学部教授

【評価部会】

石井 孝之	タカ・イシイ・ギャラリー代表
井上 和明	ギャラリーパストレイズオーナー
太田 泰人	神奈川県立近代美術館普及課長
齊藤 洋一	松戸市戸定歴史館館長補佐
佐谷 周吾	シュウゴアーツ代表
杉山 悦子	世田谷美術館企画担当課長
増田 玲	東京国立近代美術館主任研究員
光田 由里	公益財団法人 渋谷区美術振興財団学芸員

開催日 平成22年11月26日（金）

議題 平成22年度新規収蔵作品の選定

記者懇談会

第1回記者懇談会

開催日 平成22年6月15日（火）

議題 平成21年度の事業実績及び平成22年度の活動方針説明

第2回記者懇談会

開催日 平成23年1月20日（木）

議題 平成21年度事業外部評価の報告
平成22年度及び平成23年度新企画紹介
平成22年度新規収蔵作品の紹介及び実見

平成22年度 トピックス

- 5月15日 開館15周年記念カフェ・プロジェクション
3期にわたり8月29日まで、2階ロビー吹き抜けにて大型スクリーン上映企画を実施
- 5月26日 第1回外部評価委員会
外部評価方法の確認及び平成21年度事業実績について報告
- 6月15日 第1回記者懇談会
平成21年度事業実績及び平成22年度活動方針の説明
- 7月7日 写真映像文化振興支援協議会理事会及び懇親会
平成21年度の事業実績報告及びギャラリーツアー・懇親会の実施
- 7月28日 第2回外部評価委員会
平成21年度事業全部門について総括と最終評定を討議
- 9月29日 第1回企画諮問会議
平成21年度事業実績及び平成22年度活動方針説明。
平成26年度の展覧会企画提案
- 9月20日 敬老の日 展覧会無料サービス
65歳以上のお客様は展覧会が全て無料となるサービスを実施
- 10月1日 都民の日 展覧会無料サービス
展覧会が全て無料となるサービスを実施
- 10月28日 館長 福原義春「第17回読売国際協力賞」受賞
企業メセナ活動を中心に、公私にわたり様々な面で国際交流に貢献した功績が評価された。
- 11月26日 作品資料収蔵委員会
平成22年度新規収蔵作品の選定
- 1月2-3日 お正月特別開館
2日は展覧会無料、3日は割引サービスを実施。この他イベント多数実施
- 1月20日 第2回記者懇談会
平成21年度事業外部評価の報告、平成22/23年度の新企画及び平成22年度新規収蔵作品の紹介
- 2月6日 開館以降の入場者数 500万人達成！
- 3月8日 来館者500万人達成記念 展覧会無料サービス
展覧会が全て無料となるサービスを実施



「開館15周年記念カフェ・プロジェクション」より分藤大翼氏（映像人類学者・信州大学准教授）による講演会